

市民の願いが前進

日本共産党4議席

市民が声をあげれば市政は動かします。

2020年度予算には、「切実な願いの実現を」とみなさんとともに要求してきた数々の改善が盛り込まれました。

これからも、一人ひとりの声に耳を傾け、「だれひとり取り残さない」市政の実現をめざします。



左から、小田桐たかし市議、植田和子市議、いぬい紳一郎市議、高橋あきら市議。

教育

アルバイト漬けの
学生生活から抜けられる



今年4月から、看護学生に対する給付制奨学金制度が実現。月3万円（年間36万円）が支給され、アルバイトをして学費をねん出している苦学生を応援します。

東葛看護専門学校の学生たちは約9千筆の署名を市に提出し、5年間の運動で実現しました。

くらし

償還払いから
現物給付へ

『ひとり親家庭の医療費助成』について、「現物給付を」と求める日本共産党の質問に、「来年度の実施に向け、準備を進める」と答弁。一歩前進です。

現在は、病院窓口でいったん医療費を立て替え払い（中3までの子どもは200円）し、申請書を市に提出すれば医療費が戻ってくる『償還払い』となっているため、一定額の現金がないと受診ができません。また、子どもに使うお金を優先するため、親は体調が悪くても、受診を後回しにするなどの実態も。

他県では、受給者証などを提示すれば医療費の窓口払いがない『現物給付』が広がっており、1日も早く実現すべきです。

さらに実現へ

力あわせましょう

補聴器購入の助成を

70才以上の約半数が加齢性難聴といわれ、コミュニケーション能力の低下による認知症やうつ病の原因にも。補聴器の早期装着は難聴の進行を遅らせ、高齢者の生きがいにもつながります。他市では実現され、高い効果を示しており、補聴器への公的助成を流山市でも求めていきましょう。

「気候非常事態宣言」を提案

地球規模の「気候危機」が叫ばれています。流山市ではTX沿線開発により森と緑が大幅に消失。パリ協定で2050年に温暖化ガス「実質ゼロ」をめざす世界の流れに逆行しています。「国の政策が変わらなければ難しい」（市長）の一言にとどめず、まずは足元から「気候危機打開を」の声を上げましょう。

市議会

ねほりはほり

腎臓病患者さんらが託した 署名 不採択に

市議会では「国への意見書提出」を求める請願が審査に。内容は、腎疾患総合対策の早期確立を求めるもので、腎臓病患者さんらの署名1,634筆が添えられていました。

しかし、「国会で議論済み」を理由に残念ながら不採択。賛成11：反対16（流政会8人、自由民主党4人、公明党4人が反対）。委員会を傍聴した患者さんたちは「腎臓病や透析の大変さなどの質疑もせずに反対。悔しい」「病気を抱えて生きる大変さに聞く耳を持ってほしい」と涙をこぼされました。

一方、透析患者さんの通院を支える福祉タクシー券の拡充について、委員会審査では「研究したい」と前向きな答弁があり、「実現に向けて議会に頑張ってもらいたい」との声も寄せられました。

いじめへの不適切対応、 教員の『体罰』…教育長辞任へ

昨年、いじめや「体罰」の実態がテレビ報道された流山市。日本共産党は、保護者らの文科省要請等にも寄りそい、改善を求め一緒に運動。市長も、とうとう4月から、いじめ・不登校などの児童生徒への支援等を行う「対策室」を新たに立ち上げることになりました。

一方、教育長は任期を残し、辞任を発表。いじめ・教員の「体罰」による被害への支援、再発防止など真摯な反省、風通しの良い組織への刷新や取り組み強化が求められています。



子どもの笑顔と成長のために、みんなで力を集めよう

身近な要求実現



街路樹を剪定（流山3丁目）
いぬい紳一郎



江戸川台駅東口喫煙所撤去
植田和子



在宅訪問入浴サービスが拡充
小田桐たかし



溢れる排水溝の解消（前ヶ崎740地先）高橋あきら